

論文の要旨

氏名 Macel Premysl

Analyses of the Policies Related to Forests in the Czech Republic with regards to the Changes during the Transitional Period and EU Accession ~Impacts of Policy Changes on Forest Owners~

(体制移行と EU 拡大過程におけるチェコ共和国の森林政策分析～森林所有者に対する政策変化のインパクトを中心として～)

本研究は、チェコ共和国の体制移行と EU 加盟までの森林政策と森林所有構造の史的考察、並びに 1989 年の体制転換に伴って形成された私有林に対する政策を分析したものである。

まず、統計書、法律、関連資料等を用いて、森林法制の変化と森林所有構造に関する史的考察、並びに「ベルベット革命」から EU 統合までに打ち出された森林に関する各種施策を分析した。チェコの 90 年代における私有林返還は、ドイツ支配から解放後に出された the Benes Decrees Act (1946 年) に基づいて実施され、そのことが、私有林面積比率を約 4 割に留め、東欧の中では低い返還率に終わったことを明らかにした。

次に、関連資料の収集とインタビュー調査によって、森林返還後における森林所有構造の特質と EU 加盟がチェコの森林資源や林業に与える影響について分析した。返還された私有林の所有規模は 2ha 未満の割合が高く、また、小規模私有林は単位面積当たり木材生産量が他の所有形態に比べて高いことから、木材供給力を有していることを明らかにした。しかし、反面、林業経験のなかったサラリーマンなどが多く含まれ、知識が乏しいため持続的な森林経営が担保されない危険性も大きいことを示唆した。以上から、EU 統合後に要請される森林政策を展望すると、森林法の強化や森林所有組合の設立支援、森林認証の普及等が重要であることを提言している。

以上要するに、本研究は、チェコを対象に、体制移行と EU 拡大過程における同国の林業と森林政策の展開を包括的に分析し、私有林化の現状と問題点を明らかにしたものである。